

ZENFAUREN

全附連 | 全国国立大学附属学校連盟・一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会

子どもたちと
この国の
未来のために

全附P連PTA研修会 第15回全国大会

令和6年9月27日(金)～9月28日(土)

基調講演

哲学者

永井玲衣氏



「哲学対話」という言葉は少々聞き慣れないものですが、その実践者である永井氏は、開催スローガンである「語り合う」と密接に関連する内容をご講演くださいました。ご講演のキーワードは「対話」で、「対話」とはまさに今回の講演テーマである「問いあう、ききあう、考えあう」ことだそうです。そして、対話の場で重要なのは、「きく」とであり、対話は協働する場で、「あなたがいるからこの言葉が生まれた」という経験ができる場所だそうです。永井氏は、そのような対話の場の重要性を、ご自身が日ごろ行っている哲学対話の場で参加者から寄せられた言葉を紡ぎながら、丁寧にご説明してくださいました。

問いあう、ききあう、考えあう

「哲学対話」という言葉は少々聞き慣れないものですが、その実践者である永井氏は、開催スローガンである「語り合う」と密接に関連する内容をご講演くださいました。ご講演のキーワードは「対話」で、「対話」とはまさに今回の講演テーマである「問いあう、ききあう、考えあう」ことだそうです。そして、対話の場で重要なのは、「きく」とであり、対話は協働する場で、「あなたがいるからこの言葉が生まれた」という経験ができる場所だそうです。永井氏は、そのような対話の場の重要性を、ご自身が日ごろ行っている哲学対話の場で参加者から寄せられた言葉を紡ぎながら、丁寧にご説明してくださいました。

Vision&Education, Ltd.
代表取締役

木村貴志氏



大会二日目の基調講演はVision&Education, Ltd. 代表取締役社長木村貴志氏をお迎えし「学び方が変わると人生が変わる」と題してご講演いただきました。木村氏は企業勤務、県立高等学校教師などを経て、二〇〇六年に「志の教育を創る」をテーマに、Vision & Education, Ltd. を設立されました。「志の教育」「学び方の変革」をテーマとして全国各地で教育実践活動を展開中です。木村氏が登壇されると会場内は一気に木村氏のエネルギーに包み込まれ「生涯一教師だ」と思っています。今日の内容は、全て自身自身に向けて言っていることだと受け止めてください」とのご挨拶から始まりました。

学び方が変わると人生が変わる

「志の教育」とは、自身が塾長を務める「バックス九州寺子屋」を卒業した塾生のレポートが読み上げられました。そこには、一年間真剣に自分と向き合い、体得した三つのことが書かれています。

LINE UP

- 1～4面—
全附P連PTA研修会
第15回全国大会
- 5面—
全附連盟特集
- 6面—
特集 防災について
国土交通省・宮城教育特支
- 7～9面—
第20回 全附P連
絵画コンクール
- 10面—
附属学校・PTA・
地区会 活動紹介
- 11面—
全附P連 事業告知
- 12面—
附属小学校 校章一覧

附属学校園の魅力発信する



全国国立大学附属学校連盟
理事長 木山 慶子
(群馬大学共同教育学部附属
特別支援学校校長)

9月27日～28日に、全附P連の全国大会が実施され、盛会のうちに閉じることができました。大変多くの方々にご参会いただき、子どもたちの未来のために語り合う、実りある会となりました。改めまして、心より感謝申し上げます。

この会を通して、附属学校園は、たくさんの方々に支えられ、愛され、助けていただいている、と実感いたしました。そして、そのお気持ちやご支援、ご協力にお応えするためにも、我々附属学校園がその役割や使命を果たし、魅力ある学校園であり続ける努力をしなければ、との思いも強くいたしました。

そこで、附属学校園の取組を広く発信するために、『国立大学附属学校の未来教育』を発刊いたしました。ぜひ、お手に取っていただき、附属学校園の教育活動について、さらなるご理解を深めていただければ嬉しく思います。

未来を生きる子どもたちへ



一般社団法人全国国立大学附属学校
PTA連合会
会長 桑名 良尚
(三重大学教育学部附属小学校)

私たちが過ごした昭和・平成の時代であっても、ゲームやAV、通信機器の発展に始まり、バブル経済の崩壊、自然災害なども含め、急速な社会の変化を目の当たりにしてきました。

子どもたちが過ごしている現代は、さらに速いスピードで変化していくことでしょう。私たちの知らない職業や、想像もできない社会が広がっているのだと思います。だからこそ、何かを決定するときには、自分の意志で選択してほしいのです。未来を生きるのは子どもたちであり、私たち親ではありません。私たちにできることは、先人が私たちに伝えてくれたように、力強く生きる言葉を伝えることだけです。

子どもたちと共に過ごせる時間は短いです。その限られた時間の中で、人として生きる力や、他者への思いやり、優しさを身につけて、社会に出てほしいと願っています。

全附P連 PTA研修会

第15回全国大会



文部科学大臣 盛山正氏 代理
文部科学省 総合教育政策局長 茂里 毅氏

盛山大臣におかれましては所用のためご欠席となり、以下のご祝辞を文部科学省 総合教育政策局長 茂里 毅 様に代読いただきました。

本日、ここに一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会PTA研修会第15回全国大会が盛大に開催されますこと、心からお喜び申し上げます。

皆様におかれては、日頃よりPTA活動を通じて、学校教育への御支援、子供たちの健全育成のために多大な御尽力をいただき、誠にありがとうございます。

全国国立大学附属学校PTA連合会におかれては、国立大学附属学校における活動にとどまらず、いじめ防止対策活動としてセミナーの開催や防止対策プログラムの実施を広く推進されているなど、昨今の教育課題に対し、国立大学附属学校に寄り添った活動を実施いただいていると承知しております。

また、国立大学附属学校の優れた取組や授業事例等を広く周知・展開されるなど、国立大学附属学校がその使命・役割を果たしていくうえで、大変な御努力と創意工夫の下、活動を進められていることに対して、改めて感謝申し上げます。

文部科学省では、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現

を指し、質の高い教師人材の確保や学校におけるICT環境の整備、支援スタッフの配置充実、働き方改革の推進などに取り組んでおります。

地域における指導的、モデル的な学校となるべき国立大学附属学校においては、令和の日本型学校教育を先駆的に実践いただくことを期待しております。そのために、文部科学省としても、国立大学附属学校における一人一台端末の整備やスクールカウンセラー等の配置充実などを進めているところですので。

学校教育の質の向上を通じて全ての子供たちへのより良い教育の実現のためには、学校のみならず、家庭・地域との連携・協働が必要です。皆様方におかれましては、学校教育のよき理解者として、今後とも、御理解とお力添えをいただきますようお願いいたします。

結びに、今回の大会が実り多いものとなりますことを期待いたしますとともに、国立大学附属学校PTA連合会の益々の御発展と皆様方の一層の御活躍を祈念し、大会に当たっての御祝いの言葉といたします。

令和六年九月二十七日



国立大学附属学校 全国同窓会長 塩谷 立氏

国立大学附属学校の全国同窓会長を務めていただいているお立場からご祝辞を賜りました。

同窓会の紹介や会長に就任された経緯をご紹介いただいたあと、国立大学附属として施設整備に大きく関わる運営費交付金の動向に

関することも含め、これからの学校運営に対するご心配や附属に対する思いの強さをお話いただきとても心強く感じました。

ご自身が七十五歳を迎えられた今年、母校（静岡大学附属中学校）の同級生で



日本教育大学協会 会長 國分 充氏

日本教育大学協会の歴史や役割をご紹介いただき、教員の養成をしていくうえで附属学校園が存在することの重要性についてお話をいただきました。

附属学校の成果と課題を「見える化」することについても取り組んでおられ、わかりやすくまとめたものを文部科学省をはじめとする教育関係機関に向けた広報活動を強化していただいているとのこと、存在意義を問われることもある附属学校園で子どもが学ぶ

我々にとって大変心強いお話をいただきました。

新型コロナウイルスの心配が大きかった時期を振り返られ「保護者からの理解と協力があつたことで乗り越えることができました」と保護者に対する感謝のお言葉もいただきましたが、先生方のご苦労も大きかったことを想像し感謝の念を新たに、附属学校園が教員養成に果たす役割に保護者としても役割を果たしていきたいと感じました。



国立大学附属学校連盟 理事長 木山 慶子氏

冒頭に全国大会の開催に對するお祝いと、学校運営に於ける保護者からの協力に感謝のお言葉を頂戴しました。

また、校長先生として勤務されている群馬大学教育学部附属特別支援学校では、顔を合わせた保護者から「お身体は大丈夫ですか？」

と声をかけられることがあり、先生と保護者がともに思いやりの気持ちを持って関わり合うことがお互いの関係より良くし、子ども



一般社団法人 全国国立大学附属学校 PTA連合会 会長 桑名 良尚

多くの方に御参加いただきまして誠にありがとうございます。また、語り合おう、い

きまして誠にありがとうございます。また、語り合おう、い

きまして誠にありがとうございます。また、語り合おう、い

きまして誠にありがとうございます。また、語り合おう、い

大会宣言

「子どもたちとこの国の未来のために語り合おう、いまわたしたちができることを」をスローガンに掲げ、PTAとして何ができるだろうかということを議論してまいりました。その中で対話による相互理解の大切さを改めて感じるようになり、本大会ではその対話ということを重視し、一方通行ではないお互いの意見交換から生まれる新たな気づきを得られるものとして、全附P連PTA研修会第15回全国大会を開催しました。

教育に対する考え方は人それぞれで、各家庭や学校によっても様々であり、また時代の変化とともにその手法は変わってきています。しかし本質を忘れず基本に立ち返ることとは非常に重要であります。この二日間、「語り合う」という基本的な事柄からこれらが必要とされる学びやインクルーシブ社会の実現に向けた取組みについても考えてきました。今の時代を生き抜く子どもたちのために何が出来るか、地域に必要とされる国立大学附属学校として、いま何をしなければならぬのかを振り返る良い機会になりました。

本連合会では、子どもたちとこの国の未来のために、国立大学附属学校におけるPTA活動の振興を図り、国立大学附属学校の持つ使命、存在意義を国や地域に広く発信・共有し、さらに国立大学附属学校がより公益的・公共的な役割を果たせるよう、積極的な活動を展開することをここに宣言いたします。

令和六年九月二十八日
一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会
全附P連PTA研修会
第15回全国大会

全附P連 PTA研修会

第15回全国大会

1	12:00-13:00	14:00	15:30-16:00	17:30-18:00	20:00
目	受付	開会行事 60分	基調講演 90分	休憩	分科会 90分
目				休憩	情報交換会 120分

行政説明

J-FLEC における金融経済教育の取り組み

金融経済教育推進機構
経営戦略部 経営企画課
調査役
奥村 安澄 氏



J-FLECにおける金融経済教育の取り組み、金融経済教育の重要性についてご説明いただきました。様々な金融団体が活動を行っているが、金融経済教育がまだまだ行き届いていない現状があること、国全体として中立的な立場から金融経済教育を推進していく為に法律に基づく公的な組織として今年の4月に設立された新しい団体であること、J-FLECのミッションとビジョンをお話いただき、取り組みを通じてひとりひとりが自立し、安心かつ豊かな生活を実現できるように、お金に関する知識や判断力を意味する「金融リテラシー」の向上に取り組んで行くことをご説明いただきました。

「財政教育プログラム」について

財務省
大臣官房地方課
課長補佐
森永 真次 氏



財務省財務局とは、財務局の業務、財政教育プログラム、3つの課題についてご説明いただきました。その中でも財政教育プログラムの活動として、児童生徒が、財政がどんな意味を持つのか、こうしたテーマについて主体的に考えてもらう機会を提供しているということ。財務省として取り組んでいる「フューチャー・デザイン」という考え方を取り入れて活動を行っている事例もあり、得た知識を基に、国の財政を考えるディベート授業を行うなど、財政教育プログラムを通して、日本の財政、自分たちの将来について考え、より良い人生を歩むきっかけとして今後も継続して活動を行いたいとお伝えいただきました。

国立大学附属学校に期待されること

文部科学省 総合教育政策局
教育人材政策課
教員養成企画室長
小倉 基靖 氏



「国立大学附属学校に期待されること」についてご説明がありました。まず、国立大学附属学校の学校数等の現状についてお話しいただき、次に附属学校の在り方について有識者会議で議論された内容をご説明いただきました。課題としてあげられた、附属学校の在り方や役割の見直し、大学との連携、地域との連携、成果の還元、附属学校の規模等の見直し、この5つの課題についてお伝えいただきました。また、国立大学附属学校の使命・役割についてのお話では、将来教師になろうと思う日本全国の教員への影響や、地域のモデル校として、地域の学校の質が上がるのが重要になってくるということ。また、文科省として国立大学改革の推進の為にしている支援や予算についてもご紹介がありました。

“農業農村整備”と日本の歴史・文化～学習マンガの活用による理解促進～

農林水産省
農村振興局 整備部
設計課 事業調整管理官
空 周一 氏



昨今の世界的な食糧危機の課題に直面し、日本における農業の重要性に注目が高まっています。そのような背景から、学校でも農業を学ぶことが必要になると思いますが、農業を身近に感じる授業を実施することは難しく、教育現場の課題の一つであるといえます。そのような中、今回農水省から農業を学習するツールとしてビジュアル的に分かりやすいマンガ形式のコンテンツをご紹介いただきました。その中にはICT教育を前提としたショート動画を見られるページもあり、農業を身近に感じながら学習できるよう工夫を凝らした内容であることを非常にわかりやすくご説明いただきました。

青少年の安心・安全なインターネット利用環境整備に係る取組について

総務省 情報流通行政局
情報流通振興課
情報活用支援室 室長
西 久美子 氏



インターネット利用の低年齢化が進んでいるなかで、青少年を取り巻くデジタル環境と課題として、デジタルネイティブの青少年をどう捉えるか、デジタル空間の特性やそれに伴うトラブル等のご説明がありました。デジタル空間で青少年が責任ある行動を起こせるよう、保護者としての関わり・ペアレンタルコントロールのお話や、総務省における取組や相談窓口の連携強化のご紹介をいただきました。デジタル空間の特性をよく理解し、それぞれの立場の大人が連携して青少年が安心・安全にインターネットを活用できる環境を整えてまいりましょうとお話しいただきました。

こども家庭庁におけるいじめ防止対策の取組について

こども家庭庁
支援局 総務課
企画官
菊地 史晃 氏



こども家庭庁におけるいじめ防止対策の取組についてのご説明がありました。学校外からのアプローチによるいじめ解消の仕組みづくりとして、全国12自治体（首長部局）で実施されている「学校対応のほかに専門家の活用等による、いじめの相談から解消まで取り組む手法等の開発・実証」や、いじめ調査アドバイザーのご紹介がありました。いじめを軽視することなく早い段階から複数の大人が的確に関わり組織的な対応をとることとあわせて、国立大学附属学校においては地域のモデル校として積極的にいじめ防止対策に取り組んでいただくようご要請がありました。

PTA 学校活動紹介

グローバル教育・ICT 教育と働き方改革で推進する未来志向の学校運営—生徒主体の学びを育む教育改革の実践—

千葉大学教育学部
附属中学校
副校長
安藤 和弥 氏



千葉大教育学部附属中学校独自の特色を活かせるようなグローバル教育・ICT教育についてご説明いただきました。時代に則したICT利活用により、教育改革を子どもたちのみならず、働き方改革等で教職員のためにもなる具体的な活用事例をご紹介いただきました。また、千葉大全員留学プロジェクトによる、多角的で持続的なグローバル教育についてもご説明いただきました。なお、今発表の事例説明スライドは当会より発売のムック本原稿をもとにChatGPTを活用して作成されたものになっています。ぜひご覧ください。

知的障害特別支援学校のセンター的機能の実践—関係機関との多様な連携を通して—

筑波大学附属
大塚特別支援学校
教務主任
佐藤 義竹 氏



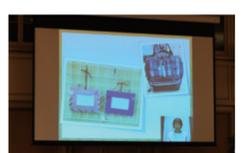
特別支援学校のセンター的機能の実践から、特別支援教育は教育のユニバーサルデザイン化を背景に、どのような種類の学校にもニーズが多様化していることがよく理解できました。これまでのコンサルテーションや研修協力により特別支援学校のセンター的機能の充実化を図り、学校のニーズに合った支援や課題解決が円滑かつ多角的に実施されるようになってきていること、また企業との連携も進み、教材コンテストを共催され、コンテストに入賞した商品を製品化するといった事業についても明確にご説明いただけました。

捨てちゃうものがステキに変身！～未来のためにアップサイクル～

奈良教育大学附属幼保
連携型認定こども園
前PTA会長
山本 智子 氏



附属幼稚園全国初として設立された認定こども園でのPTA活動事例としてご報告いただきました。アップサイクルをテーマに、地元のランドセル製造企業がこれまで捨てていたランドセル廃材を活用し、SDGsの視点も取り入れ、園のすべての子どもたちが楽しめるイベントを開催されました。廃材の提供、イベントで使用する道具の貸し出し、そしてイベント準備・開催など、どのアクションにおいても負担が偏ることがなかったことや、PTAが主体となり、関係者全体が前向きに取り組み、互いを尊重しあうことがイベント成功の大きなカギであったとの報告をいただきました。



全附P連 PTA研修会

第15回全国大会

2日目	8:30 受付	9:00 開会行事 70分	10:10 休憩	10:30 基調講演 120分	12:30 閉会行事 10分	12:40
-----	---------	---------------	----------	-----------------	----------------	-------



分科会2

森俊介様より「生成AI時代におけるデジタルと教育の向き合い方」についてご講演をいただきました。今までの工業社会から現在の情報社会となり、今後新たな社会へ向かっていくといわれています。今後の社会に必要な人材や能力とは何か、子どもたちにどのような教育が必要なのかを参加者全員と語り合いました。デジタルが身近になり、よりデジタルを利用しながらの生活になっていきます。そんな時代だからこそ、問題発見力や的確に予測する力などAIに指示できる能力が求められます。今以上に「学びに向かう力、人間性」が求められてきます。今から教育をしていく必要があるそうです。

子どもたちもスマートフォンを持つ現在、短編動画や映画などを簡単に観ることができてしまっています。子どもへの調査で、思考や創造のほかに、人の気持ちを理解したり、場の空気をよんだりするような高次元なコミュニケーションをつかさどる前頭前野を中

生成AI時代におけるデジタルと教育の向き合い方

心に脳が発達していないと結果が出ていきません。そのため、より規律、自制心を持たせることが重要になってきます。世界的な学力調査では、数解的リテラシー、読解力、科学的リテラシーはとて高い日本ですが、自立学習についてはとても低いそうです。つまり、やれといわれればそこそこできるが、自らやるうとはしないし、やり方もわからない状態になっているそうです。それでは、生成AIに命令をすることができない。これからの時代、デジタルと共存していくためには、今以上に自分で設定した目標に向けて歩むことが必要となり、デジタルと共存していくために、より学ぶことが重要であると結ばれました。

今回の分科会は、AIが普及しはじめ、便利になる一方で何を学んでいくべきなのか、だからこそ学習が必要であることなど、今後に必要なことを考えさせていただけただけ講演となりました。



分科会1

全国大会分科会1では、一般社団法人家族・保育デザイン研究所代表理事の汐見稔幸氏を講師に迎え、「教えから学びへ」をテーマに、21世紀型教育の重要性についてご講演いただきました。汐見氏は、東京大学附属校の校長としての経験に基づき、現代の子どもたちが直面する社会環境や食、発達障害、不登校問題に関する深い洞察を示し、脳神経科学を取り入れた新たな視点から解説されました。また、欧米と日本の教育の違いをMITやハーバード大学の事例を交えて

教えから学びへ

説明し、非認知能力を伸ばす教育の重要性を分かりやすく伝えてくださいました。教育は「教える」とではなく、子ども自身が学び、自主性を引き出すことこそが本当の教育であるとの考えに、強く共感しました。この講演を通じて、自分の子どもに余計な手助けをしてしまう自分を反省するきっかけにもなりました。



分科会4

分科会4は、一般社団法人ラ・バルカグループ、久遠チヨコレート代表、夏目浩次氏をお迎えし、会場からの質問も交えながら座談会形式で開催されました。夏目氏は現在のお仕事を始めるきっかけについて、「障がいという属性があるだけで選択肢が狭くなることか、重いと軽いついとか、そんなことは関係なく、誰もが活躍できる社会を作りたいと思つた」と言われていました。

また、「二ノキニヨキ育つ子どもたちの可能性

多様な子どもの働く未来を変える

性をつぶさないで伸ばしてあげることが大切だ。小さな可能性やしぐさを見ることが、社会にしたい」とも言われていました。会場では夏目氏の言葉に頷き、熱心にメモを取る参加者の姿が多く見られました。夏目氏の言葉には、一人一人としっかり向き合う強い姿勢が感じられ、一保護者として、子どもともしっかり向き合いたいと感じました。



分科会3

全国大会分科会3では、三つのテーマについて講演いただきました。まずは、先駆的に部活動の改革を行っている埼玉大学教育学部附属中学校の岸本航司指導部長に部活動を改革する理由や現状の取り組みやプロセスをご講演いただきました。また、神戸親和大学教授松田雅彦様に「附属における部活動の地域移行のあり方」について、学校の中に学校と地域を結ぶ組織をつくることの重要性などのご説明をいただきました。最後に、

部活動の地域移行について

スポーツ庁スポーツ戦略官大野雅史様に「部活動の地域連携・地域移行と地域スポーツ・文化芸術環境の整備について」をテーマに、国としての取組みの状況や現状について、少子化による生徒数、学校が減少している中、部活動は持続困難な状況であること、そのような状況でも、将来にわたり生徒がスポーツ・芸術活動に継続して親しむ機会を確保する為には地域や地域スポーツ・文化クラブ活動移行に向けた取組みを行っているなど、貴重な意見をいただきました。



大会記念品・販売ブース

当日会場にご参加いただきました皆様へ、全国の国立大学附属特別支援学校の生徒の皆さんが作製していただきました製品をお渡ししました。ハーバリウム、クラフト製品、さおり製品、封筒、メッセーじカード、箸置き等、とてもしっかりとした素敵な製品ばかりでした。製品を作製している写真・動画のご提供もいただきまして、会場でご紹介いたしました。一生懸命に作製してくださっている様子に感銘を受けました。



また、販売ブースを設けて特別支援学校内でオープンしているお菓子屋さんさんの焼き菓子、特別支援学校の卒業生が通所する福祉事業所で製作されたレザークラフト製品等を販売いたしました。筑波大学附属特別支援学校の卒業生、先生から販売のお手伝いをいただき、クッキーの詰め合わせを販売いたしました。製品をご提供していただきました全国の国立大学附属特別支援学校の生徒、先生、福祉事業所の皆様のご協力に感謝申し上げます。

教育後援会会長会

今年度の全附後連の会長会は初の試みとして全附P連と異なる会場で開催し、昨年度と同規模の約100名の皆さまにご参加いただきました。昨年度から行っている後援会運営ガイドラインの周知の次の段階として、先行的な取り組みを行っているお茶の水女子大学附属中学校教育後援会（鏡水会）の中村会長と、埼玉大学教育学部附属小学校後援会の高橋事務局より各校の取り組みと成果について共有いただき、理解を深めました。後半のグループディスカッションでは各学校園が抱える悩みや課題について活発な意見交換がなされました。全附後連は全国の教育後援会が適正で効率的な運営を行うために、加盟校がともに学びあえるような活動を引き続き行ってまいります。



情報交換会

本年度の情報交換会は、久しぶりに食事を伴う形式となり、ようやく新型コロナウイルスによる影響が出る前の形式で開催することができました。テーブルは分科会ごとに分かれ、学校・校種を超えた交流ができ、有意義な情報交換をすることができました。また、会の後半では、盛会とすべく、附属学校卒業生の現役藝大生による素晴らしい歌唱により、本年度の情報交換会を彩りあるものとしていただきました。



全附連盟特集

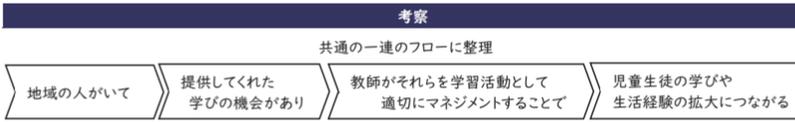
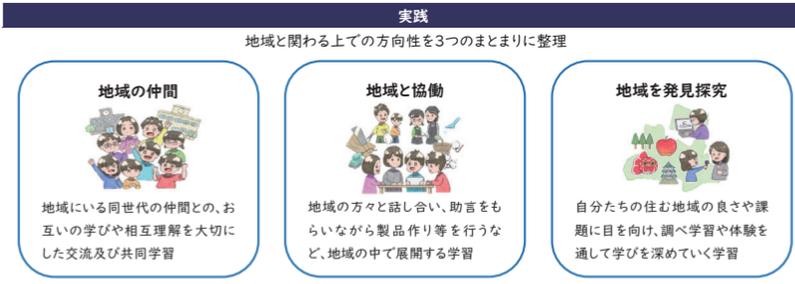
「連携」

特

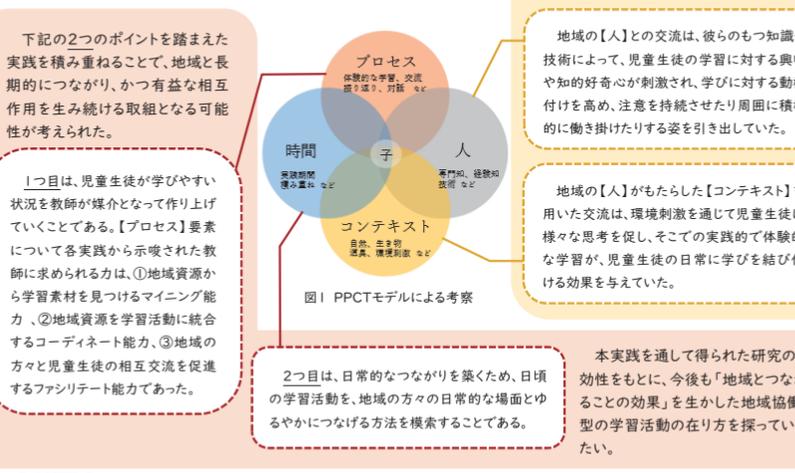


弘前大学教育学部附属特別支援学校
～地域の人たちとの社会的相互作用でアップデートする子供の学び～
(令和4年度～令和5年度)

今日の学校教育の話題の一つに地域協働型の学習活動がある。本校では、令和4年度から令和5年度までの研究で、本校で行われてきたこれまでの取組を手掛かりに、地域との接点が多たらず児童生徒の学びへの作用について検証し、地域協働型の学習活動が拡充していく流れの中で、地域との接点を取り入れた学習活動に取り組んでいくための視点を検討した。



一連のフローが成果に結び付いた要因には、地域協働型の学習活動が内包する諸要素と児童生徒との相互作用の影響が考えられる。この相互作用の様相を、U、ブロンフェンブレンナーによるPPCTモデル(白井・田島・南, 2013)を活用し考察した(図1)。



← 左のQRコードより、本研究の詳細をご覧ください。

中



静岡大学教育学部附属静岡中学校【校訓】「真善美」「自主独立」

これからの社会で活躍できる人材を
外部団体組織と連携して育成する

本校の校訓は「真善美」「自主独立」です。「全てのことを『真善美』に照らし合わせて自らの判断で責任をもって行動しなさい。」という意味になります。ですから本校には制服や校則(一般の学校で言うもの)はありません。生徒会が全ての中心となり行事等の可否も決めます。個々の生徒が自ら判断し主体的な姿を今後も大切にしていきたいと考えています。
これからの学校では社会状況や自然環境の大きな変化にも対応できる力を育むことが大切で、最先端の情報を取得している専門家集団との強い連携が必要だと考えています。



高



東京科学大学附属科学技術高等学校の取組み

探究活動を教育課程の中心に据え、東京科学大学との連携教育を実践

○学校概要

- 東京科学大学 (Science Tokyo) と連携し、理工系分野の教育のあり方について研究を進めています。国立大学附属唯一の科学技術高等学校として先進的な教育を実践しています。
- 第1学年は科学・技術科として全教科を共通に履修し、第2学年以降は5つの分野(応用化学・情報システム・機械システム・電気電子・建築デザイン)に分かれて履修します。
- 令和6年10月に東京工業大学と東京医科歯科大学が統合して東京科学大学が設立され、本校も校名を改称しました。



○Science Tokyo (東京科学大学) との連携

- 1学年: 「グローバル社会と技術」特別講義**
現在、私たちの抱えている様々な問題を取り上げるとともに、技術者のあり方も学ぶ特徴ある教育実践です。Science Tokyoの教員による特別講義で、さらに学びを深めます。
- 2学年: 博士課程学生講演会**
Science Tokyoの大学院博士後期課程の学生による講演会を開催しています。最先端の研究の楽しさ、研究の進め方などについて講演をしてもらい、質疑応答を通じて交流します。
- 2学年: 「先端科学技術入門」**
Science Tokyoの教員と本校教員とが協同で授業を行う科目です。高等学校で学習する理数系科目の内容が、現代の先端科学技術でどのように活用されているかを、具体的な研究事例をもとに学びます。
- 3学年: 「課題研究」成果発表会での指導・講評**
問題解決型の学習活動に加えて、STEMの知識や領域を活用して成果を導き、成果として発信できる内容に進化させます。成果発表会では東京科学大学の教員にも指導・講評をしてもらいます。



○海外協定校・海外理数系高校との連携

- フィリピン共和国デ・ラ・サール大学附属高校との協働研究**
平成23年度から交換留学を実施して生徒を派遣しています。コロナ禍ではオンライン協働研究により交流を継続しました。令和6年度は対面での国際交流を再開し、オンライン協働研究と組み合わせた国際協働研究プログラムを実施しました。
- 海外理数系高校主催サイエンスフェアへの参加**
シンガポール共和国NUS High Schoolが主催する国際科学大会や、韓国Korea Science Academy of KAISTが主催する国際サイエンスフェアに生徒が参加・発表し受賞しています。



中



群馬大学共同教育学部 附属中学校

令和6年度の研究 未来創造科について

実現したい未来に向けて責任をもって挑戦することができる生徒の育成

未来創造科 / 総合的な学習の時間を改編

本校の学校教育目標の一つ「知性を高め、未来を創る」の具現化に向け、令和4年度より総合的な学習の時間を「未来創造科」として改編し、教科等横断的な学びを実現しようと考えました。今年度はその3年目となります。第3学年の生徒は中学校生活の全てを通して、現代的な諸課題を解決し、よりよい未来に向かうためにはどうすればよいかを探究してきました。詳しくは、右の二次元コードから、生徒の探究的な学習のマニュアルであり、教員の手引き書でもある「未来創造科ガイドブック2024」をご覧ください。



多様な他者との連携を通して

自分たちが決めたテーマを探究していくためには、観察や実験、見学などで調べたり、実際に体験したりすることが大切だと考えます。外部にアポイントメントを取るために、生徒は情報収集の内容や目的、方法を記した「起案書」を作成します。起案書を講座の教員、学年の総合担当、学校全体の総合担当がチェックをして修正し、電話やメール等で連絡を取ります。生徒の探究における連携の具体例には、以下のようなものがありました。

市内の飲食店に提案

CO₂削減のための取組として、地域の飲食店のレジにカーボンフットプリントをする提案をしました。具体的な計算方法についての疑問を解決するために、先行事例であるノルウェーのスーパーの発案者にメールをしたり、環境省の方にオンラインで質問したりして情報収集をしました。

文建協との情報交流

歴史的建造物の修復技術を継承したいと思う人を1人でも増やすというテーマで、文化財建造物保存技術協会に連絡を取り、修復や復原の考え方について学校でお話を伺いました。歴史的建造物を知ることができるイベントの企画案についてもご指導いただきました。最終的には、前橋市文化財保護課にも提案して、実現可能性についてのアドバイスをいただきました。

win(生産者)-win(消費者)-win(私)

日本の過疎化と林業衰退に着目した生徒の探究です。高山村にある地域交流センターに資金提供をいただき、林業従事者に木材を提供いただき、木のおもちゃやコースターを作成しました。作成したものは、地域交流センターのスペースやカフェに設置し、地域の人や観光客に使ってもらう計画です。おもちゃ作りは、県内の木工教室に伺ったり、県産木材振興係に連絡したりしてアドバイスを頂きました。

大学・県教委 学校評議員・PTA役員 保護者からの講評

未来創造科の「まとめ・表現」の過程では、異学年交流や夏休みの実践前に行う中間検討会、学校全体に発表する未来創造科シンポジウムなどが設定されています。特に未来創造科シンポジウムには、群馬県教育委員会の教育次長、群馬大学の学長や学部長、学校評議員やPTA役員など、様々な方にご参加いただいております。生徒の探究と提案に対しての励ましや、それぞれの専門的な視点からの意見をいただき、これからの人生において探究し続けるために必要な学びを得られる、貴重な機会となっています。



特集 防災について 国土交通省・宮城教育大学附属特別支援学校

いつ、どこで起こるか分からない自然災害。子どもたちが安心して暮らしていくためには防災・減災についての知識がとても大切です。学校や家庭での学びに役立てていただきたい情報を特集しました。

特集解説



前国土交通大臣政務官
衆議院議員
石橋 林太郎氏

私の母校、広島大学附属中・高等学校の校舎は、それはそれは古かった、いや、ボロかった。他校の様子はよく分かりませんが、おそらくどこも予算確保に苦心されていることと思います。

国立大学法人の予算はここ五年ほど約一兆八〇〇億で横ばいです。コロナ以降の物価上昇や今後の賃上げなどを考えると、予算を増やさないと既存事業の維持も出来ません。予算を増やすという、すぐどこからか「税金の無駄遣い」という批判の声が上がりますが、附属学校園の耐震強化や防災機能強化などは命を守るためであり、決して無駄遣いではありません。

全附P連の皆さんのご理解とご声援をお願いします。

最後に「ASUKAモデル」を紹介させていただきます。

体育の授業中に倒れ、亡くなった明日香ちゃん。その悲しみを繰り返さないためにAEDの活用など心肺蘇生講習の充実を目指す取り組みです。

お願いですので、「ASUKAモデル」でググって動画をご覧になってみてください！

防災・減災のハード事業と救命教育などのソフト事業で「子どもたちを守る」附属学校園づくりを共に進めてまいります！

省庁



国土交通省 水管理・国土保全局
防災課災害分析官
高橋 政則氏

最近では災害に関するニュースを見ない日はないほどになっています。気候変動により災害が頻発しています。本年一月の能登半島地震、七月の大雨、八月には台風第一〇号や南海トラフ臨時情報の発令、九月には能登半島で激甚な水害が発生し多重災害となるなど、頻発化、激甚化しています。

とはいえ、各々身近なところではまだ災害など全く関係ない生活を送られている方がほとんどだと思います。災害の「自分事化」が言われています。他人事と捉えず、例えば自身の生活圏等でのリスクやその回避方法を調べるなどし身を守る心構えをしておくことが重要です。その地域で生まれ住んで数十年で初めての被災という場合も増えており、「他人ごと」ではないのです。

国土交通省では「防災学習ポータルサイト」を開設し、児童・生徒が防災について学校や家庭で学習する際に活用いただく際の支援をしています。防災学習には洪水や地震等のメカニズム等の理論面の理解を進めること

命を守る防災教育

とが必要です。そして、欠かせないのは身近な家の周りや学校の周りなどのような現象が起こりうるのか、災害のリスク情報をしっかり把握することです。さらには発災の際にどのような行動すべきかをしっかり理解しておくことが必要です。「ハザードマップポータルサイト」は、全国の身の回りの災害リスクを瞬時に調べられるので便利です。あわせて、最新かつ詳細な情報が載っている市町村のハザードマップも必ず確認しましょう。

例えば、洪水災害においては気象予報技術の進展によりある程度の予測が可能となっています。適切に気象情報や川の水位情報をインターネットで収集し、適時に判断して避難行動を取ることができれば命を守ることが出来ます。河川の水位や雨の状況は、「川の防災情報」のサイトなどでリアルタイムに確認することが出来ます。ライブカメラで川の様子を確認することも可能です。ここでマイ・タイムラインというものを紹介します。一人一人が身近な情報を整理して、発災した際の個人の

時系列の行動計画をまとめるものです。国交省では「逃げキッド」という小中学生向けのマイ・タイムライン作成ツールを作成しており、小学生でもマイ・タイムラインを作成することが出来ます。



中国地方整備局福山河川国道事務所による防災教育の支援風景（生徒がハザードマップを見て、マイ・タイムラインを作成している様子）

また、国交省では担当者が出前講座でどこにでも出かけていき、マイ・タイムラインを含めて防災に関する講演会、説明会、体験会をお手伝いすることが出来ます。国交省の担当者は、全国の地方整備局等や事務所等にて、平素の業務で洪水防衛や土石流対策などに携わっているため、その特性を生かし全国の現場のつながりによって、地元との教育関係者の皆様との接点を更に広げたり、進化させたりしていきたいと思っています。（※）

※防災学習ポータルサイトに国土交通省防災教育担当窓口（地方整備局等）が載っております。

ぜひ、国交省のポータルサイト、逃げキッド、出前講座などを活用いただき防災について学ぶことで児童・生徒さんの生き力を伸ばすことに取り組んでいただければいかがでしょうか。



ハザードマップポータルサイト 防災学習ポータルサイト 防災ポータル 川の防災情報 マイ・タイムライン

「防災学習ポータルサイト」のコンテンツについて

「防災学習ポータルサイト」では、児童・生徒が自ら防災を学ぶことができる動画をはじめ、楽しみながら防災行動を学べるカードゲーム等、数多くのコンテンツや教材を用意しています。今後も、様々な防災に関する写真、動画といった素材や最新の教育現場の実態に即した教材等を随時追加していく予定です。

災害時の危険な状況や気を付けるべきポイントなどをまとめた「カードゲーム」や授業を補完する「動画」、防災教育を行う教員のための「ガイドブック」もこのポータルに！

防災学習ポータルサイト

URL: <https://www.mli.go.jp/river/boonai/education/index.html>

「防災学習ポータルサイト」について

マイ・タイムライン作成のためのチェックシート

逃げキッド

小中学生向けマイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」

附属特別支援学校

『防災リュック』による災害発生時への備えについて

宮城教育大学附属特別支援学校

平成23年に発生した東日本大震災では、宮城県内の各支援学校も多くの被害を受けました。本校では、知的障害のある子どもたちの防災への意識を高め、様々な訓練や体制づくりを進めてまいりました。その中の一つが、被災した経験を生かし、震災後より続けて実践している本校PTAの取組が「防災リュック」の常備でした。

この「防災リュック」には、学校で子どもたちが被災し、保護者に引き渡しを行うまでの間、子どもたちが少しでも安心して過ごせるようにと、日頃から食べ慣れているお菓子や被災時に用意しておくよい日用品（写真①）、好きな本やぬいぐるみなどを入れ（写真②）、各教室に置き、日々の災害に備えています（写真③）。毎年5月に「防災学習の日」を設定し、地震を想定した避難訓練、防災食づくり、引き渡し訓練を行う中で、実際に「防災リュック」の中のものを使い、子どもたちへの活用方法の定着が図



写真② 防災リュックの中身の様子



写真③ 教室での常備の様子

られています（写真④）。「防災リュック」は当初、「非常時持ち出し袋」として始まったものですが、学校・PTAが連携して改善を重ね、内容物の見直しを行ってきました。災害時、引き渡しまでに3日程度かかると想定し、学校に備蓄しているローリングストックを補う分の非常食や飲料水を入れたり、ナップザック等では肩が痛くなりやすいことからリュックサックに変えたりと、改善が図られています。

いづどこで非常災害が起こるか分からない中で、日頃の対策がとても重要となっております。ぜひ、全国の学校においても、この「防災リュック」の実践が参考になればと願っております。



写真④ 避難訓練の様子

＜参考＞ 防災リュックの中身（1人分）

1	水（500ml）×2	※ 避難用
2	非常食（5食分）	○防災リュックは児童生徒本人が常に持っているようにしてください。
3	本人が食べられるもの	○フェイススタールや手を拭いたり、出掛けや帰宅時の処理などに使用したりします。
4	2〜3日に分けて食べられる量	
5	お菓子	
6	お菓子	
7	お菓子	
8	お菓子	
9	お菓子	
10	お菓子	
11	お菓子	
12	お菓子	
13	お菓子	
14	お菓子	
15	お菓子	
16	お菓子	
17	お菓子	
18	お菓子	
19	お菓子	

※年齢や性別に応じて選択してください。

写真① 防災リュックの中身一覧

第20回 全附P連 絵画コンクール

今年度の絵画コンクールは「みんなの想い、あつまれ！」をテーマに開催されました。園児・児童・生徒の皆さんが真剣に取り組んでくれ、応募作品の総数は1,605点を数えました。2次審査は主管校である山形大学附属四校園で行われ、4名の審査員の先生方は子どもたちの作品1枚1枚に真剣に見入っていました。子どもたちの想いがあるままに描かれている作品はどれも素晴らしく、力強さに溢れており、そのような作品にたくさん出会うことができうれしく思いました。



主管校所感



山形大学附属中学校
PTA会長

吉村 和武氏

この度、第20回全附P連絵画コンクール「みんなの想い、集まれ！」を山形大学附属中学校・小学校・特別支援校・幼稚園の三校園で主管させていただきました。

普段は四校園のPTAが連携することは殆どありませんので、意思疎通や情報交換もでき、貴重な体験ができたと感じております。

小学校の長岡会長と、昨年度の名古屋さんを視察させていたから、約十カ月かけて準備してまいりましたが、全附P連のサポートと関係者の皆様のご協力、そして多くの素晴らしい作品を応募くださった子どもたちに御礼を申し上げます。



三名の審査委員の方々もレベルの高さに悩みながら、真剣に一次審査から最終審査まで選考をいただきました。来年度の函館さんにも素晴らしい作品が想いとともに集まることと思います。附属に通う子どもたちの健全な成長を祈念し、主管校の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございます！

主管校紹介

山形大学附属学校園



山形大学附属中学校
校長

森本 真紀氏

山形大学附属学校園は、大学の附属学校として、山形市松波地区に幼稚園、小学校、中学校があり、飯田地区に特別支援学校があります。各学校園を紹介したいと思います。

- ①教育目標
- ②児童生徒数
- ③教職員数
- ④今年度の研究主題
- ⑤研究会について

【幼稚園】

- ①心豊かでたくましい子どもの育成
- ②六二名
- ③一四名
- ④遊びがうまれる環境構成
- ⑤六月に「遊びと学びのフォーラムin山形」を開催

【小学校】

- ①「太陽の子」本質を見極める
- ②「北国の子」強い意志をもつ
- ③「日本の子」高い価値をめざす
- ④五七二名
- ⑤四七名
- ④自ら問題解決を進める子ども
- ⑤五月と十一月の年二回の研究協議会を開催

【中学校】

- ①健康かつ明朗で、豊かな知性と誠実な社会性を持ち、自主的で実践力のある生徒を育てる。
- ②四〇一人
- ③三二人
- ④生徒が「学びの主体」となる授業の共創
- ⑤五月の学習指導研究協議会と、秋の教科研究会を開催

【特別支援学校】

- ①みずから学び、かわり、はたらく人を育てる
- ②五〇名
- ③三四名
- ④児童生徒が自分と学びをつなぎ、よりよい自分へ向かう授業づくり
- ⑤二月に学習指導研究協議会を開催

今回のコンクールを通して、全国の子どもたちのたくさんのできる「想い」に出会うことができました。運営することでこのような貴重な機会をいただいたことに感謝申し上げます。

今後も四校園の連携を密にし、のびのびと自分自身を表現できる子どもたちの育成に尽力してまいります。研究会をはじめ、お気軽にお立ち寄りください。

審査員講評

未来を彩る創造力と心の表現



東北芸術工科大学
教授
青山 ひろゆき氏

全国の子どもたちの豊かな感性と出会えた素敵な審査会でした。作品一つひとつに様々なドラマがあり、込められた思いを文章とともにじっくりと読み解かせていただきました。生まれ育った地域の自然や、家族との思い出、そして自身の想いなど、画面いっぱいに表現され心を強く動かされる作品が多数ありました。

これからの時代は、AIによって予測が難しい多様な社会が広がっていくことでしょう。技術が進化し、プロンプトによってデザインや映像が作られる時代です。今回の子どもたちの作品には、そのような技術では表現できない「人間らしい心」がありました。体験や環境が異なるからこそ、それぞれの価値観や美しさの感じ方も違います。絵を描くことで、自分だけの答えを見つけ出す力が育まれます。子どもたちの創造力が、未来を彩っていく姿が楽しみになりました。

子ども自身の思いとこだわりが溢れる「本当の表現」を



山形大学
名誉教授
降籙 孝氏

素晴らしい多くの作品に出会えてとても幸せでした。一人一人の思いやこだわりが絵から溢れ出ている子どもの「本当の表現」こそ素敵です。夢中で表現している子どもの姿が絵からビシビシと伝わってきました。

全体的なレベルはとても高いのですが、気になったのは低学年の児童なのに大人のような表現をさせている作品です。裏のコメントも他の作品は子ども本人が書いているのに明らかに大人の筆致です。これでは同じように表の絵も大人がかかっているのかと疑ってしまいます。

この絵画コンクールは上手さを競う会ではありません。大人のような表現を目指すのではなく、発達段階に即した子ども自身の「本当の表現」を大切にしていきたいです。是非この精神を強調・継続して欲しいです。

審査を終えて 子どもたちの想いとは



一般社団法人全国国立大学
附属学校PTA連合会 会長
桑名 良尚

1次審査を終えた400点ほどの作品を観させていただきました。

「みんなの想い、あつまれ！」を課題に、子どもたちの熱い想いを時間をかけ、みんなに知ってもらおうと頑張った情熱が作品からひしひしと感じとれました。花火大会のシーンにスイミング、野球、サッカー、バスケットなどのスポーツ、楽器や合唱、家族や友人と過ごした夏休みの思い出、昆虫、お祭りなどカラフルな色彩で力いっぱい表現されていました。

また、子どもたちが好きなことは、頑張ったこと、それにやはり楽しいこと、そんな想いを生涯大切にしてもらいたいと感じ、私にとっても心躍る瞬間でした。

絵から見取る想い



山形大学附属特別支援学校
教諭
鈴木 希菜氏

オンラインで行われた1次審査から1,600点以上の作品を見せていただきました。画面上で見るとは、下書きの線や色の光り方など、見取るのが難しい点もありましたが、どれも自分の想いを素直に表現してあり、タイトルや作品への想いも合わせて審査するということを楽しんで行うことができました。審査の過程では、「みんなの想い、あつまれ！」というテーマから、一人一人がどんな気持ちでこの作品を思いついたのか、どんな状況でこの絵を描いたのかなどを大切に選定することを心掛けました。その中で、本人の想いだけでなく、絵を描いた方に寄り添うまわりの人や環境との関係性を感じることができました。どの作品を見ても自然と笑顔になれる、素敵な時間になりました。このような機会をいただき、大変嬉しく思います。ありがとうございました。

第20回
全附P連
絵画コンクール
「みんなの想い、集まれ!」
入賞作品

学校園優秀賞

幼稚園部門
小学校部門
中・高等学校部門
特別支援学校部門

長崎大学教育学部附属幼稚園
福岡教育大学附属小倉小学校
山形大学附属中学校
北海道教育大学附属特別支援学校



大阪教育大学附属池田小学校
松永 朔歩
美しいけやき坂



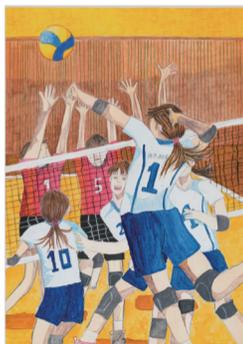
大阪教育大学附属特別支援学校
村上 壮一郎
夏の思い出



特別賞



愛媛大学教育学部附属幼稚園
堀川 音羽
うちあげよう! 音羽のワクワク花火!



神戸大学附属中等教育学校(前期)
工藤 真由佳
白熱試合



宮城教育大学附属幼稚園
藤田 華都
マンタとジンベイザメがおよいでいる



茨城大学教育学部附属小学校
上土谷 奈帆
カラフルな公園であそびたいな



お茶の水女子大学附属小学校
高木 莉那
友達



山形大学附属中学校
須藤 雅文
透き通った乱川



群馬大学共同教育学部附属中学校
飯塚 龍之介
さあ、旅行に出発



香川大学教育学部附属高松小学校
波間 丈慈
夏の王者クワガタムシ



鳴門教育大学附属小学校
谷口 詩歩
しゅうかくさい



宇都宮大学共同教育学部附属小学校
関 愛柊
流れる音のハーモニー



横浜国立大学教育学部附属特別支援学校
上澤 彩世
スマイル! 三浦の思い出



金沢大学人間社会学域
学校教育学類附属小学校
上林 奏子
私のバイオリン



千葉大学教育学部附属小学校
篠塚 うた
全力運動会



京都教育大学附属幼稚園
可畑 実怜
みんなで仲良くすごしたいな



鹿児島大学教育学部附属小学校
楠 恭太郎
響け!みんなのプレアデス



筑波大学附属大塚特別支援学校
白土 虎太郎
ぼくの想いを絵にしたら・・・

みんなの想い賞



鳴門教育大学附属幼稚園
中島 蓮
今だ！まてまてー！



福岡教育大学附属小倉小学校
逸木 すみれ
ナイトプールでみんなえがお



弘前大学教育学部附属小学校
今井 望人
子供会ふっかつ！



筑波大学附属小学校
佐久間 玲佳
大好きな友とともに



上越教育大学附属小学校
長井 奏介
みんなでサッカー



金沢大学人間社会学域
学校教育学類附属小学校
服部 恵人
いつか きっと



長崎大学教育学部附属幼稚園
大庭 有桜
かぞくでパーベキュー



北海道教育大学附属特別支援学校
寺尾 梨杏
星の誕生



山形大学附属中学校
塩野 愛佳
躍動



長崎大学教育学部附属小学校
吉田 衣千華
明るい未来へレッツゴー



金沢大学人間社会学域
学校教育学類附属小学校
富山 開翔
かっこいいザリガニ



山形大学附属中学校
大瀧 塔子
大切な思い出



宮城教育大学附属特別支援学校
西脇 杏珠
黒くて大きいスイカ ジューシー



東京学芸大学附属特別支援学校
小河 優菜
友達いっぱい



長崎大学教育学部附属幼稚園
増田 実生
みんなで食べたい！おきなおにぎり！



静岡大学教育学部附属静岡小学校
望月 優希
色々あった、みんなでやりとげた、
思い出になった、本キャンプ



大阪教育大学附属池田小学校
吉村 達希
たのしい人生めいろ



山形大学附属中学校
松岡 春志
Travel

カンガルー賞



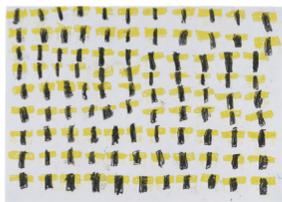
金沢大学人間社会学域
学校教育学類附属小学校
坂井 想
「リベンジ」びきあみ



筑波大学附属小学校
重信 芙美
あこがれのフェンシング！



山形大学附属中学校
高橋 優輝
大きな声で笑いたい！



京都教育大学附属幼稚園
豊島 一暉
たまごのおすし



京都教育大学附属幼稚園
賀量 朱音
みんなででのこがり



鳴門教育大学附属幼稚園
坂東 伸一郎
トマト畑



静岡大学教育学部附属静岡小学校
河村 歴
まい日、電車！！



香川大学教育学部附属高松小学校
岡本 夏月
皆を笑顔に大作戦！！～花束を君に～



千葉大学教育学部附属小学校
大石 環
黄昏



福岡教育大学附属小倉小学校
堀 りん音
私の町の自慢！戸畑祇園山笠



秋田大学教育文化学部附属中学校
野口 桜
黒潮の水族館



京都教育大学附属桃山中学校
細木 佑麻
想いを込めた翼で



神戸大学附属中等教育学校(前期)
新谷 光代
「カジノテロ7号店」



長崎大学教育学部附属小学校
吉田 泰一郎
ぼくの大ぼうけん



北海道教育大学附属特別支援学校
宮川 翔
すいぞくかん



群馬大学共同教育学部附属特別支援学校
桐木 翔伍
ずっとはしれるゆめのでんしゃ



埼玉大学教育学部附属特別支援学校
平 優里
おじいちゃん家の庭で、いとこと
パーベキューをしたよ！



東京学芸大学附属特別支援学校
川崎 きの
おいしいピザ食べたいな



福岡教育大学附属福岡小学校
種 七瑠美
オリンピックを読む



静岡大学教育学部附属静岡小学校
菱田 琳斗
みんなでつかんだ1位



鳴門教育大学附属小学校
三好 陽
やっとなー！ヤットヤット！！



鹿児島大学教育学部附属小学校
馬場 圭佑
楽しかった釣り



静岡大学教育学部附属浜松小学校
高柳 成実
シベリアンハスキーの本当にやりたいこと



山形大学附属幼稚園
有川 ほのか
くらげといっしょにおよいだよ

附属学校・PTA・地区会 活動紹介

詳細と最新情報はこちらに→



生成AIの活用



大阪教育大学附属池田中学校
副校長 辻本 堅二氏

授業の効率化を図り、教員の働き方改革の促進にも資することを期待し、生成AIを導入。英語の「書く力」を高めるための形成的評価として ChatGPT によるフィードバックを取入れた授業を試行しています。自分の書いた英作文を入力し、内容、構成、語彙、文法についてフィードバックを受け、英作文力の向上を図ります。新たな情報技術であり発展途上の生成AIの利点や問題点の理解は重要で、生徒の発達の段階を十分に考慮しながら、模索し進めています。

生徒会主催「どこでも弁当」の復活!



香川大学教育学部附属高松中学校
副校長 吉田 崇氏

コロナ禍を経て、生徒会本部の企画で毎月1回開催されている「どこでも弁当」企画。通常は弁当をホームルーム教室で食べているのですが、「いろいろな場所で交流しながら食べたい!」という願いに答えて始めた企画です。中学校は入れ替わりが早く、中止が長いと伝統行事や継承が消えていくことが多いのですが、生徒会本部によって復活しました。中庭やグラウンド等へランチに。一緒に外に出て食べる先生もいます。

新制服と書籍の紹介



北海道教育大学附属函館中学校
副校長 黒田 諭氏

「機能性、丈夫さ、現代性」の3つの観点から新制服のデザインを選定、新制服を導入しました。概念にとらわれない選択の自由を、与えることができました。ジャケットのエンブレムとボタンは、生徒全員がデザイン制作に取り組み、選出されたデザインを採用しています。「ワークブック 地域課題解決型探究学習&ICTの基礎基本」は、地域社会と連携しながら実践的な学習を進める方法を更にグレードアップさせた教材となっています。

伝承遊び



兵庫教育大学附属小学校
PTA役員 2年生学年代表
木下 加代子氏

2年生の学年親睦会として、「伝承遊び」を企画しました。木村ちひろさんにお越しいただき先生や保護者も交えて一緒になって遊びました。あんたがたどこさ・なべなべそこぬけ・ゴム飛びなど、親の世代には懐かしく子どもの世代には新鮮な遊びをはじめ、お手玉・あやとり・けん玉・こま・かまぼこ落としなどの遊びを時間いっぱい自由に体験しました。

会長だよりの配信スタート ～育友会活動の見える化を～



京都教育大学附属幼稚園
育友会会長 舞量 智美氏

校務支援システムツールであるツムギノを利用し「会長だより」を配信。PDFを作成・配信し「見える化」することで役員活動への周知と理解を深めていただくことや行事への活動参加を促し、保護者間の繋がりを増やし、育友会の存在意義について感じていただけるきっかけになればよいと考え、スタートさせました。会長だよりを通して先生方と育友会、会員とが強く結び付き、ともに相互理解を深めて未来につなげてゆきたいと願います。

京教が生んだ巨匠・川尻潤先生にインタビュー



京都教育大学附属幼稚園
育友会会長 舞量 智美氏

京都教育大学附属幼稚園から附属桃山小中高のOBであり、美術家、陶芸家そして教育者としてご活躍中の川尻潤先生にフィーチャーし、様々なお話をインタビュー形式でお伺いしました。自己発信する時代の流れがやってきたのだから、誰もが表現者として挑戦し、批判者に対して恐れる必要はないと語る先生。そう語る先生の眼差しは、陶芸家として、土に触れる時のようにそっと優しく、ときに力強く、また教育者として受容の心を感じました。

将来の姿とそこにつながる道筋をリアルに描く「生き方探究」



京都教育大学附属桃山中学校
副校長 秋山 雅文氏

総合学習に「生き方探究」を開設。自己理解を深め、他者との交流を通して未来の自分の姿を描いていきます。多くの子どもたちは自分の将来の夢を隠し持っています。その中でそれを公言し実現に向けて実際に歩みを始めた人こそが、夢を実現していく場合が多いのが実際です。「生き方探究」では、それらを掘り起こし、自分にもできるという希望と見通しを持つことができるよう、将来の姿とそこにつながる道筋をリアルに描こうということを目指します。

防災体験会



大阪教育大学附属幼稚園PTA
会長 深江 康之氏

大阪教育大学附属幼稚園で実施した「防災体験会」園児たちは、保護者、先生、後援会、地域の消防署などの協力を得て、楽しみながら防災の知識をみにつけました。園内には7つのコーナーが設けられ、このうち防災グッズについて学ぶコーナーでは、非常食やカセットコンロなどおよそ15種類のグッズについて使い方などの説明を受けたあと、布で隠されたグッズの名前を答えるクイズが行われ、子どもたちは元気よく答えていました。

幼少中+学校園OBによる交流活動



広島大学附属三原学校園
PTA副会長(幼稚園) 竹本 昌幸氏

広島大学附属三原学校園の特色の一つに、「幼小中一貫を意識した授業・行事」があります。幼稚園、小学校、中学校の異校種交流をメインとした、やっさ祭り、バザー、幼稚園(年中)と8年生のふれあい体験、運動会、広島大学附属三原学校園の卒業生による講演会など、授業・行事を行なっています。自分の嬉しかったことを他の人にも分け与える、最高にカッコいいお兄さんお姉さん、そしてOBの姿を詳しくご紹介しています。

教育界と共に歩んで78周年
日本最大の教育専門全国紙

日本教育新聞

全附P連 連載記念!

○全国国立大学附属学校PTA連合会の連載を毎月掲載

◇第1回全国国立大学附属学校PTA連合会連載 令和6年(2024)4.15

令和6年(2024年)4月から全国国立大学附属学校PTA連合会の活動を応援するため、連載企画を始めました。附属学校園に通われる園児、児童、生徒の成長を見守る全附P連の取り組みについて、「日本教育新聞」を通じて共有することができます。

○国立大学附属学校の魅力を教育界へアナウンス

全附P連の情報を元に取材を行います。ご紹介いただきました国立大学附属学校園の魅力な様子、意義や価値につまみしても教育界へアピールいたします。

○国立大学附属学校応援キャンペーン

「日本教育新聞」の購読(新規1年以上)で令和5年「日本教育新聞縮刷版」をプレゼント!

保護者の方とともに読んでほしい 一般社団法人 全国国立大学附属学校PTA連合会 会長 桑名 良尚

今、学校で何が起っているか、教育が何を目標しているかなどを我々保護者が、知る機会が少ないです。共働き世帯が増える中、今まで家庭や地域で育んできた子どもたちが、保護者や地域住民と過ごす時間も短くなり、学校に求めるものがより多くなってきています。保護者、地域、学校がともに子どもを育てて行くには、保護者等が今の教育を理解することが重要だと考えます。国の考える教育政策や制度、時代とともに変化してきたカリキュラムや授業法、地域に求められる学校経営に実践的な取り組み、それに加えいじめ、不登校などの現代的課題、我々保護者も含め教育に携わる方々の悩みや希望、工夫を記事として多く取り上げてもらっています。これらの記事を読むことで学校と保護者が情報を共有し、教育に関する知識や見識を深めることができ、子どもたちにとって楽しい学校環境が作られることを切に願っています。

【お申し込み】必要事項 ◆教育現場の必須アイテム!国立大学附属学校園で求める教育情報が毎週届きます。是非ともこの機会にご購読ください。

☎ 0120-43-3746/ 学校名(ご担当者)、ご連絡先(郵便番号、住所、電話番号、FAX)、支払書類(見積書、納品書、請求書)、日本教育新聞の開始月、ご購入期間をお知らせください。FAX 03-3280-7030/ 受付後、折り返しご連絡をさせていただきます。弊社ホームページの「お問い合わせ」→「お問い合わせ内容」からもお申し込みができます(要必要事項)。※新規でご購読の国立大学附属学校が対象になります。個人のお客様は24時間ホームページからお申し込みができます(国立大学附属学校のキャンペーンとは別になります)。

日本教育新聞社 JAPAN EDUCATIONAL PRESS

〒108-8638 東京都港区白金台3-2-10

発行:毎週月曜日(月4回、年45回、合併月有) ■ご購読料:月額2,500円(税込2,750円)、年額30,000円(税込33,000円)



全附P連 事業告知

特別委員会(財務)いじめ防止対策事業

全国各地でいじめの重大事案が発生しています。附属学校においてもいじめ問題は常に取り組むべき課題であり、私たち保護者、子どもたちや先生方が、いじめに対する理解や予防の在り方などを学ぶことで、いじめで苦しむ子どもたちがいなくなるような学校づくりに貢献していきたいと考えております。

全附P連では、いじめに関するセミナー動画を製作し、全附P連のホームページで動画をライブラリー化し、アップロードしています。個人での動画視聴、PTAの研修会などでその動画を使っていじめに関する講演を受講し、グループディスカッションを行うことなど、様々な方法で相互理解を深め、いじめに対するPTAの取組みを積極的に進めるように補助する活動を行っています。

いじめで苦しむ子どもたちがいない学校づくりのため、今後も積極的に活動を行っていきます。



第7回 作文・絵作文コンクール

先生へありがとうの気持ちを伝える作文、絵作文を募集します。多くの皆様からのご応募、お待ちしております！

テーマ 「先生へ、普段伝えられない想い、伝えてみよう」

応募規定 作文の部 1600字以内
絵作文の部
作文 400字以内
絵画 A4用紙(白無地)1枚

審査委員長 くすのきしげのり氏 (児童文学作家)

応募日程方法 所属学校にお問い合わせください

結果発表 3月3日(月)頃を予定



全附P連幼稚園特別支援委員会の取組み

全附P連は、附属幼稚園・特別支援学校の教育活動、並びにPTA活動を応援し、すべての人々が、笑顔で豊かな生活を営む社会の実現を目指し、附属学校を中心とした障がい理解と共生を育む活動に積極的に取り組んでいます。

「あいサポート運動」の推進

すべての人たちが、障がいを理解し、少しの手助けや心配りの実践により、暮らしやすい共生社会を実現するため、全国の附属学校で運動の普及を図る「あいサポーター研修」を開催しています。

「カンガルーシップ活動助成事業」の実施

附属学校の子どもたちや保護者、教員が連携し、障がいへの理解や共生を育む全国の附属学校PTA活動を応援推進するため、助成事業に取り組んでいます。

「幼稚園活動助成事業」の実施

本年度の特別事業として、附属幼稚園で育まれてきた幼児教育と、それを支える保護者の思いや活動が継承されるよう、全国の附属幼稚園PTA活動を応援する助成事業に取り組んでいます。



埼玉大学教育学部附属幼稚園 (幼稚園活動助成事業)



香川大学教育学部附属坂出中学校 (あいサポーター研修)

「幼稚園特別支援保護者交流会」の開催

2月1日(土) 開催決定!
13:30~16:00
ZOOM 開催 | 参加費無料

附属学校関係者はどなたでも参加可能です!

「国立大学附属学校の未来教育 ~子どもたちとこの国の未来のために~」 発行!

平成29年10月20日発行の「国立大学附属学校のすべて」、平成30年11月1日発行の「国立大学附属学校の先進教育」に続く、国立大学附属学校教育シリーズの第三弾。

月刊「コロンブス」編集部による「国立大学附属学校の未来教育」が、全附P連、並びに全附連盟の協力のもと、令和6年11月1日に発行し、現在大きな反響を得ています。

本書の「はじめに」の冒頭には、次の記述があります。

「新しい学習指導要領に沿った教育課程(新課程)では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう人間性」の3つの要素をあげている。これらのことばはいずれも今の時代を「生きる」ためにキーワードで、全国国立大学附属学校PTA連合会(全附P連)が掲げる「子どもたちとこの国の未来のために」というスローガンに符合する。」

全附P連では、平成29年より「改革と周知」を掲げ、全国の附属学校の公益性や公共性を向上する特別広報活動に努めています。皆様、国立大学附属学校が指標する未来教育の姿をご覧ください。



発行所

全附連 | 全国国立大学附属学校連盟
(一社)全国国立大学附属PTA連合会
〒113-0033 東京都文京区本郷4-16-6
文京区本郷四丁目ビル
天翔オフィス後楽園9階905号室
TEL 03-5990-9444
FAX 03-5990-9445
E-mail jimukyoku@zenfuren.org
印刷 株式会社インテックス

令和6年度広報委員会
副会長
齋藤 伸 (福島特支)
宮本 昌尚 (香川坂出幼少中)
委員長
世古 丈人 (三重中)
副委員長
長谷川 康介 (函館小)
堀 毅文 (福岡教育福岡中)

全附P連
編集委員
全附連盟
令和6年度情報広報委員会
木山 慶子
(群馬大学共同教育学部
附属特別支援学校)

第16回全国大会

令和7年度「全附P連PTA研修会第16回全国大会」を開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

日程：令和7年
9月26日(金)~27日(土)

全国国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ この保険は(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会の団体保険です。

2024年度 中途加入受付中 カンガルー保険のご案内

ただ今募集中!

詳細につきましては、パンフレットをご覧ください。

団体総合生活保険

任意加入制度

24時間補償

約50%割引
全国国立大学附属学校PTA連合会が窓口の団体契約なので、保険料が約50%割引です。
・団体割引：30%・損害率による割引：25%
・大口団体数割引：10%適用

24時間補償
お子様を取り巻く様々なリスクに対応した安心のための24時間補償制度です。

簡単・便利!
・保険料のお支払は、便利な「口座振替方式」
・更新のお手続きは、便利な「自動更新」です。

加入対象者
① 全国国立大学附属学校園に在籍の幼児・児童・生徒
② 本制度にご加入いただいた上記①の兄弟で、公・私立の幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校に通われている幼児・児童・生徒(ご加入時に満3歳以上から満18歳以下の方に限り)

加入手続き パンフレット差込の加入依頼書にご記入・ご捺印(銀行届出印)のうえ、返信用封筒にてご返送ください。

申込締切日 随時ご加入いただけます。(お手続きの翌月1日(午後4時)からの補償開始となります。)

※パンフレットのご請求、保険料につきましては、取扱代理店までお問い合わせください。

[引受保険会社] **東京海上日動火災保険株式会社**
(担当課)公務第二部文教公務課 〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 TEL:03-3515-4133 FAX:03-3515-4132 2024年4月作成 24TC-000529

全員加入制度 ※個人での加入はできません。

1 園児・児童・生徒、教職員の皆さまのケガなどを補償する
園児・児童・生徒・教職員総合補償制度
(学校契約団体傷害保険、賠償責任保険PTA特約)

2 園児・児童・生徒、教職員の皆さまを犯罪事故からお守りする
犯罪被害事故見舞補償制度
(傷害総合保険)

3 PTA活動に参加中のご両親・教職員の皆さまのケガや賠償事故を補償する
PTA活動総合補償制度
(普通傷害保険PTA団体傷害特約、賠償責任保険PTA管理者特約、生産物特約)

保険期間 2024年6月1日午後4時から2025年6月1日午後4時まで
※「カンガルー保険(全員加入制度)」は全国国立大学附属学校PTA連合会を保険契約者、損害保険ジャパン株式会社を引受保険会社とし、学校契約団体傷害保険、傷害総合保険、PTA団体傷害保険、賠償責任保険(PTA特約、PTA管理者特約、生産物特約)をそれぞれ組み合わせて加入する補償制度のペットネームです。
※この広告は概要を説明したものと異なります。詳細はパンフレットをご覧ください。

[引受保険会社] **損害保険ジャパン株式会社**
公務文教営業部 教室 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL:03-3349-4679 FAX:03-3348-0238 SJ24-01307 2024年5月1日

カンガルー保険・取扱代理店のお問合せ先

《北海道・東北・関東・北信越・四国地区》
株式会社 第一成和事務所
東京都中央区日本橋馬喰町1-12-3 ☎ 0120-100-492
Daiwa日本橋馬喰町ビル3階

《東海・近畿・中国・九州地区》
海上商事 株式会社
東京都渋谷区代々木2-11-15 ☎ 0120-745-748
新宿東京海上日動ビルディング

この広告は団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。

附属小学校 校章一覧

【全国附属小学校 校章】

1872年（明治5年）に「学制」が公布されて、現在、創立150年の学校が多くあります。附属だより124号ではそれを記念し、150周年を迎えない学校も含め、全国の附属小学校の校章を掲載しました。自分の学校や全国の仲間の校章の由来やデザインを楽しんでください！（順不同）

中国地区

- 鳥取大学附属小学校**
絆は質実剛健を意味し、3本はそれぞれに「知・仁・勇」、「知・情・意」または、「知・徳・体」を表す。5弁の桜は、日本の象徴として使用。
- 島根大学教育学部附属義務教育学校前期課程**
白鳥が羽ばたく大空の青をモチーフに、子どもたちの若々しさ、大空の先にある夢と希望に満ちた未来を表現している。
- 岡山大学教育学部附属小学校**
現在の校章は、統合された男師・女子附属を象徴し、撫でし子を育てる「なでしこ」の花を基にしたデザインです。
- 広島大学附属小学校**
広島高等師範学校設立時に校章を「菊」と定め、その後形に似ている「旭日（朝日の光）」と言いついてきた。
- 広島大学附属東雲小学校**
- 広島大学附属三原小学校**
- 山口大学教育学部附属山口小学校**
昭和25・6年頃公募され、その際に応募された本校卒業生「平田孝男（よしお）」氏のデザインである。
- 山口大学教育学部附属光小学校**

北信越地区

- 新潟大学附属長岡小学校**
雪の結晶をかたどった新潟大学のシンボルマークの中央に「附小」の文字を付したものが当校の校章です。
- 新潟大学附属新潟小学校**
越後の雪の結晶、六花の中央に「師」の文字を配している。新潟師範学校から受け継がれている伝統のある校章。
- 上越大学附属小学校**
二つの三角形からなり、それぞれ「真・善・美」「智・徳・体」を意味し、雪の結晶の六角形で表現。
- 富山大学教育学部附属小学校**
「ちござくら」とよばれる開花間近の桜を型どったもの。大きく成長しようと希望に溢れる子供たちを表す。
- 金沢大学附属小学校**
昔、校庭にかしわの名木があり、雄々しさと質実さを校風にしたいと意図をもって選定された。
- 福井大学教育学部附属義務教育学校**
形状は北陸のシンボル、雪の結晶であり、仏典の六種の行「布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧」の意味をもつ。
- 信州大学教育学部附属松本小学校**
信州大学のシンボルであるコマサクの花を、手をつなぐように模様化し、円滑さと鋭さを表している。
- 信州大学教育学部附属長野小学校**

北海道地区

- 北海道教育大学附属旭川小学校**
中央の円は「至誠」を、6つの鋭角は、「勤勉」「秩序」「寛厚」「真知」「氣力」「体力」を表している。
- 北海道教育大学附属札幌小学校**
武士のかぶとの鍔形を4組あしらひ、全体として「北」の文字を表し、北海道開拓という理想を描いている。
- 北海道教育大学附属函館小学校**
五三の桐に3本の矢を配した。「桐」は清く、美しく、すくすくと育つことを、「矢じり」は目的に向かって技量を高めることを願って設定した。
- 北海道教育大学附属釧路義務教育学校前期課程**
附小の文字をかたどりに斜めに交錯するUの形は無限の拡がりや躍動するおおらかな力を讃え、垂直と水平に交わる鋭さをぶくんだ十字は、理想と平和にささえられた理性的成長を象徴している。

東北地区

- 弘前大学教育学部附属小学校**
青森師範学校時代の校章を継承し、旭日章を背景にして、中央に「附小」の文字を置いた。
- 福島大学附属小学校**
本校の校章は、どのような土地にでも根を張り、高くまっすぐに成長する「あおい」をモチーフとしています。
- 宮城教育大学附属小学校**
「附」を中心に宮城県で親しまれている萩の葉8枚で囲み、子供たちの「協力の精神」を表現している。
- 岩手大学教育学部附属小学校**
土井晩翠作詞の校歌に「やまと心を象どりて、しるしとかざす桜花」とある。春には、校庭の桜が満開となる。
- 山形大学附属小学校**
六稜は雪の華を意味し、北の国山形で、たくましく、強く清らかに希望をもって育ってほしいとの願いが込められている。
- 秋田大学教育文化学部附属小学校**
平和と文化の使徒で先達たるべき鳩が精一杯目標に向かって舞い上がり、大空を羽ばたく姿を模した。

関東地区

- 東京学芸大学附属小金井小学校**
優しさや美しさを誇り、荒れ狂う風雨にも耐える強さを秘めている「なでしこの花」をかたどっています。
- 宇都宮大学共同教育学部附属小学校**
- 東京学芸大学附属竹早小学校**
- お茶の水女子大学附属小学校**
校歌「みがかずば」の歌詞中の「かがみ」を象徴とし、古鏡の代表的な形である「つが花形」をかたどっている。
- 千葉大学教育学部附属小学校**
繁殖していた麻に由来。荒地に堪えて生き望はすくすくと伸び、繊維は強靱という麻の葉の意匠によるもの。
- 群馬大学共同教育学部附属小学校**
雪と雲と勾玉を組み合わせている。雪雲は苦勞してでも学問をすること、勾玉は文化の象徴を意味している。
- 山梨大学教育学部附属小学校**
本校の校章は、「五三の桐」と呼ばれているものです。かつての東京高等師範学校で用いられて、それと同一師範系統に属する本校でもこれを用いたのではないかと伝えられています。
- 埼玉大学教育学部附属小学校**
現校章は、男子部附属校の鳳凰と女子部附属校の八咫の鏡を取り入れてデザインされ、昭和23年から使用しています。
- 東京学芸大学附属世田谷小学校**
前身の青山師範学校の校章が五つの剣の穂先に、三種の神器の鏡を中央に配したもので、その鏡の代わりに桜をのせた「桜鏡」であらう、と語り継がれています。
- 横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校**
鎌倉幕府を樹立した源頼朝の家紋がモチーフとなっており、そのゆかりの地である鎌倉市の市章ともなっている。
- 茨城大学教育学部附属小学校**
茨城の由来ともなった「野いばら」の葉を象徴化し、中に「付小」の文字を入れたもの。
- 東京学芸大学附属大泉小学校**
大泉に学ぶ者たちを立派な葉を持つ草のように、その草が立派な花を咲かせるように教育しようと考えて菊を選びました。
- 横浜国立大学教育学部附属横浜小学校**
開校時より本校では「梅」を象った校章となっている。同じ横浜国立大学の附属学校として、附属鎌倉小学校が校章に「芭蕉胆」を使用しており、姉妹校として「松竹梅」に関連した「梅」が採用された。元は梅の図柄の中心に師範を表す「師」の字が入っていたが、附属中学校の開校に伴い、区別のため「附小」の文字に置き換えられている。
- 筑波大学附属小学校**
本校の校章は「五三の桐」です。明治21年、天皇家の裏家紋である桐の紋を下賜されたことに由来しています。

東海地区

- 静岡大学教育学部附属静岡小学校**
3つのとんがりには「真・善・美」を表し、中の六角は雪の結晶と、半円のへこみは蛸で「蛸雪」を表している。
- 三重大学教育学部附属小学校**
- 静岡大学教育学部附属浜松小学校**
校章は、星と松を象徴化したものです。星は「人生の目標を遠くにおいてもて」、松は「浜松」を意味しています。
- 愛知教育大学附属名古屋小学校**
えんじ色は日本の伝統的な色で、色言葉は向上心。そこから「伝統を大切に、未来に向かって成長する子」。
- 岐阜大学教育学部附属小中学校**
本校の校章は、岐阜大学の校章をもとに、小中学校向けに変えたものです。紡錘形は長良川の鵜飼いの鵜舟を抽象化し、黒は鶴、だいたい色はかがり火のイメージを表現したものです。
- 愛知教育大学附属岡崎小学校**
三ツ葉葵の紋所を形どっています。岡崎は徳川家ゆかりの地で、質実剛健の校風を樹立しようとしたものです。

四国地区

- 鳴門教育大学附属小学校**
外円は徳島のT変心円の内円は、鳴門の渦で、躍動する附属小学校を意味する。
- 高知大学教育学部附属小学校**
昭和52年の百年史によると昭和26年に校歌が作られた際に校章も作られたのではないかと考えられる。
- 香川大学教育学部附属高松小学校**
学校が大学内から中野天満宮の境内の一部に移設したことから、菅原道真公が愛した梅の花がモチーフとなっています。
- 香川大学教育学部附属坂出小学校**
本学園は、女子師範学校から受け継がれた学校で、その学校には、たくさん松が植えてあったそうです。その松をモチーフにして、現在の校章ができてたと伝わっております。
- 愛媛大学教育学部附属小学校**
「調和」と「発展」を希求して意匠された本校の校章は、昭和35年に制定されました。

近畿地区

- 滋賀大学教育学部附属小学校**
伝統ある校章をもとに、無限の可能性を秘めた様々な色に変化する透明のガラスを模した校章。
- 奈良女子大学附属小学校**
奈良県の花「奈良八重桜」と女性を表す名をもつ「ナadeshiko」をモチーフにしているのではないかと考えられます。
- 大阪教育大学附属池田小学校**
校章の外枠は糸巻を象徴化したものである。糸が切れることなく、愛校と団結、生成発展が永遠に続くことを意味している。
- 奈良教育大学附属小学校**
奈良市登大路町にあった旧校舎の校門を入った前庭に、天然記念物の八重桜があり、それが校章となった。
- 大阪教育大学附属天王寺小学校**
- 京都教育大学附属桃山小学校**
明治45年に制定。外形は、八咫の鏡で型どられ、清く正しく明るくすることを象徴。中央に優しさや気高さを象徴する紫雲草の花がデザインされている。
- 大阪教育大学附属平野小学校**
本校の校章は桃の花を象徴化したものです。これは、本校の前身である大阪府女子師範学校附属小学校があった天王寺桃山（現天王寺区北山町付近）の名にちなんだものです。
- 神戸大学附属小学校**
3つの星は神戸大学の精神である「真摯・自由・協同」をそれぞれ表しています。
- 兵庫教育大学附属小学校**
本校の校章は「つつじ」の花をモチーフとされたものになっています。
- 和歌山大学教育学部附属小学校**
古来、学舎が吹上の臺と言われる地にあり、砂丘に茂っている奥山の松と、吹上の浜に咲いていた白菊で構成。
- 京都教育大学附属京都小中学校**
2017年度より義務教育学校に移行した本校の校章は、旧京都小学校と旧京都中学校の校章を統合し、桜をモチーフとした現在の形になりました。

九州地区

- 宮崎大学教育学部附属小学校**
雪をかぶった笹をデザイン。学ぶ児童の蛸雪の功と、慶祝の象徴の竹（笹）で学校の発展を念ずる校章。
- 大分大学教育学部附属小学校**
- 福岡教育大学附属小倉小学校**
校名改称の際に現在の校章になったと考えられる。デザインは、小倉の「小」をモチーフにしたと思われる。
- 琉球大学教育学部附属小学校**
芭蕉の葉は子ども達の健やかな成長、羽ペンが学びと自由、円は人々の輪、ブルーは沖縄の広大な自然を表現。
- 福岡教育大学附属福岡小学校**
師範学校時代に帽章に桜の花が使われていたが、明治41年に桜の花をモチーフに校章が考案された。
- 長崎大学教育学部附属小学校**
- 福岡教育大学附属久留米小学校**
- 佐賀大学教育学部附属小学校**
- 熊本大学教育学部附属小学校**
- 鹿児島大学教育学部附属小学校**

全附P連QRコード



全附連ホームページ | 全附P連パンフレット | 全附P連チャンネル | Instagram | X | Facebook